

海燕社 の小さな 映画会 2017

2017年6月24日土 上映18:00(開場17:30)
場所: 沖縄県立博物館・美術館 博物館講座室
料金 1,000円(要予約) 電話予約 098-850-8485(海燕社/カインシャ)
※定員に達し次第、締切らせて頂きます

~~ 戦場からの二つの遺言 ~~

72年前、戦場に投げ込まれた沖縄の子供たちが、戦争を知らない子供たちに、戦世やならん、と、訴える『戦場ぬ童』。

製作に携わった人たちも半数近くが物故しています。

セーラー服に憧れて、女学校へ入った少女たちが戦争に巻き込まれ、一度も着ることのなかったセーラー服の遺言『ふじ学徒隊』。

この二作品の間に30年の年月があります。しかし、沖縄の状況は変わらぬ戦世。そこに注目してほしい。

映文連アワード2012文部科学大臣賞受賞

1945年、沖縄は史上最大の悲劇に遭遇した。沖縄戦である。わずか三ヶ月の間に二十万を越す人々(内、半数が県民)の命が奪われた。懐かしい街や村、美しい野や山は見るも無残な焦土と化した。

あの時から半世紀がすぎ、今は見事に復興した。しかし、永い年月は戦争の記憶を人々の心から次第に消し去ろうとしている。

かつてふじ看護学徒隊25名が配属された山部隊第2野戦病院は豊見城城址にあり、ここが彼女達の青春をかけた戦場であった。隣接した丘に海軍の司令部壕が構築されていた。船を失った海兵は、軍命令により、ここで最後まで戦況報告電報を打ち続けるのである。野戦病院壕には、中部戦線から大勢の傷病兵が送りこまれ、凄絶な治療看護活動が続いた。戦況が悪化した二ヶ月後、南部の糸洲壕へ後退する。そして一ヶ月後、解散命令が下り、まだ戦の続く壕外へと出されるのである。

2012年製作／監督:野村岳也／48分／海燕社

【証言】仲里ハル／宮城トヨ子／宮城喜久子／田崎芳子／渡久地敏子／名城文子／真喜志光子／真喜志善子／平良ハツ／嘉手納米子／新垣道子／大城正祺



ふじ学徒隊



1985年教育映画祭優秀賞／第28回ライブチヒ国際記録短編
映画国際ジャーナリスト連盟賞／第3回日本映画復興奨励賞／
日本ペンクラブ推薦

沖縄本島読谷村にそびえる座喜味城跡。この古琉球の遺跡に立つと、真っ青な東シナ海をバックに米軍の通信基地“象のオリ”が目にとまる。思いは40年前、この海から米軍が上陸してきた日のことへと走っていく。“象のオリ”的真下には巨大な洞窟が暗い口を開けていて、そこはもう、地獄の戦場の跡だ。集団自決の現場、散乱する遺骨と遺品。そして…。記憶は3ヵ月に及ぶ“鉄の暴風”をかいくぐり、島の南端に追いつめられていった戦場の子どもたちの足どりをたどっていく。

しかし、“戦さ世”はそこで終わったわけではない。かつて、日本軍が本土防衛の“捨て石”にした島を、米軍は“太平洋の要石”に切り変えてしまったのだ。沖縄では今でも毎日のように戦場さながらの軍事演習が続いている。思いはいつしか、眼前の“象のオリ”にまいもどってくる。

核戦争用のレーダー基地と沖縄戦の洞窟壕。この奇妙な沖縄風景を背にして無邪気に遊びまわっている子どもたちに、いったい未来はあるのだろうか。

1985年製作／監督:橋祐典／台詞:嶋津与志／語り:北島角子
／音楽:海勢頭豊／撮影:知念稔／録音:小林賢／編集:矢走直子／制作:上地完道／26分／「戦場ぬ童」製作委員会



戦場ぬ童
いくばらひ